

## 人間の文化的生活に対する発展倫理の影響

## The Influence of Development Ethics on Human Cultural Life

郭 玲玲

GUO, Lingling

(布施 元訳)

## 要約

発展倫理 (development ethics) は、深刻な存在危機において人々がいかに生存するかについての倫理的思考である。それは、人々の実践的行為の抑制を通じた持続可能な発展という目標を達成する。発展倫理は、人々の経済的生活と政治的生活に重大な影響を与えるだけでなく、人々の文化的生活にもより深く影響を及ぼす。人々が技術的文化に対して過度に関心を寄せている今日、発展倫理は、文化的生活におけるもう一つの分野、すなわち倫理的文化を回復させることを要請する。それはまた、技術的文化と倫理的文化の相互作用および統合を基礎にして文化的多様性を保護することを要求しつつ、文化の人文的精神を回復する。

## キーワード

技術的文化、倫理的文化、文化的多様性

## 序文

発展倫理は、20 世紀における人間の生存危機から生み出された。それは、社会発展と倫理とを結び付けるために登場した分野である。発展倫理は、倫理的視座を通じて発展を検査して調整し、「自然で合理的な発展の理論」と発展に関する伝統的な評価尺度とを批判する。それは、全体論的な発展や持続

可能な発展、価値ある発展、近代主義的な発展といった、発展についての含意を説く。したがって発展倫理は、人々の存在様式となる「べきである」。人々の存在様式は、経済的生活、政治的生活、文化的生活という三つの種類を有する。とりわけ文化的生活は、人々の創造性と価値を反映しうる。そして、文化的生活は一般的に、技術的文化と倫理的文化とに分けることができる。現在は、技術的文化が支配的な位置にある。技術的文化は、生産性の発展や生産用具の進歩をもたらすが、過度に目的合理性を追求し、文化それ自体に存する人文的精神や倫理的精神を無視してしまう。私たちはしたがって、発展倫理の導きのもとに技術的文化と倫理的文化とを結合させ、技術的文化とともに倫理的文化を拡大させ、倫理的文化をもって技術的文化を抑制し、文化的多様性を保護するべきである。

## 1. 技術的文化と倫理的文化の含意および関係

近代の技術革命は、とくに農業社会から工業社会へというように、人間社会における社会的生産性を促進し、近代の技術的文化が大きな役割を果たす。しかし、功利主義の効果が科学界のために無限に増幅され、人々は目的合理主義を過度に追求する。物理的技術は十分な働きを見せ、高水準の物質文明をもたらすが、人々は人文的技術を無視し、精神的な

虚しさや喪失感を、そして、エコロジーと人間性の危機を引き起こす。このことは、私たちが近代の技術的文化を深く再考し、人間性への科学的精神の回帰を訴え、技術的文化の文化的内奥を充実させ、技術的文化と倫理的文化の対等な発展を促進することを要求する。技術的文化と倫理的文化は、二つの異なる文化形態であり、合理的な世界秩序を探索する二つの異なる方法であり、それぞれの領域において大きな役割を担う。

### 1.1 技術的文化

技術的文化は、科学と技術の発展と、科学的文化と技術的文化の不断の統合とに関する、新たな概念である。これはすなわち、科学と技術の発展に関する独特の文化形態である。それは一方で、科学的文化の特徴、すなわち厳密な論理的推論をとまなう抽象的かつ普遍的な知識の特性を有し、他方で、実用性や応用性、経験的特徴を有する。したがって技術的文化は、科学的合理性と技術的実行性の産物であり、科学的精神の理論形態である。その本質は人間の主観的意識にあり、その思考方法は人間の創造性と多元論にあり、その文化形態は人間と自然の交わりという特徴を有する。技術的文化の最も重大な徴候は、目的合理主義の追求である。

### 1.2 倫理的文化

倫理的文化は、総体的な精神に配慮し、社会やネーションに対する帰属意識を強調する。すなわちこれは、仁愛の原則を礼讃し、相互人格的な調和を主張し、生命の価値や、家族および社会での個人の責務と責任をはっきりと強調し、精神世界を追求し、理想的な人格性を切望し、実践の鍛錬に配慮し、主観的な機能を重視する。したがって、伝統的文化に

とって倫理と道徳が、重要な価値に関する含意なのである。すなわち、倫理は制度的な調整における基本的な定位であり、倫理や道徳は社会生活の状態における支配的な力となる。日常における人々の思考や行為は、倫理的關係によって規定される。人文的価値を実現することは、伝統的文化の本質である。

### 1.3 技術的文化と倫理的文化の関係性

第一に、科学的精神は技術的文化の核心であり、近代の科学的精神は、技術的文化が探求的精神や懷疑的精神、原則的精神、進取的精神を有するだけでなく、ビッグ・サイエンスの時代の到来とともに、競合的な協力的精神や社会的責任の精神なども有することを要求する。すなわち、価値の論点が技術的文化のなかに含まれ、それは元来の科学的知識よりも豊富な内容をもつのである。現代の技術的文化は、目的合理性のみならず、価値合理性をも有する。技術的文化は目的合理性によって表されるが、しかし、それ自体のなかに人文的精神を内包している。また、倫理的文化は、倫理的価値を究極的な追求目標として捉えるが、その発展と実現のプロセスにおいては、科学的精神の目的合理性が浸透してくることもある。したがって、技術的文化と倫理的文化は、元来の内容の水準において調和的かつ一体的であり、目的合理性と価値合理性は総体的な論理的關係性を有する。目的合理性と価値合理性は、私たちの社会的実践において一体的であり、価値合理性は目的合理性の精神であり、目的合理性は価値合理性の現実的な支えである。

第二に、技術的文化は、科学的な合理的真理を追求し、懷疑的精神や批判的精神を要求し、動態的な特徴にみられる発展性や革新性に配慮する。伝統的文化は、倫理や道徳を最高水準のものとして捉え、

生命の原理における安定性や保守性に配慮するため、技術的文化と伝統的文化の両者が互いに接触する際、そこではただちに衝突が生じることになる。

一つ目は、革新性と保守性の衝突である。進取的精神は科学と技術の神髄であり、科学と技術は、過去の成果をもとにつねに前進的に発展し、革新を通じて技術的文化をつねに文化的発展の最前線へ送り出す。しかし、伝統的文化を保守することによって、革新意識の発生に影響が及ぶ。孔子は「楽天知命」を唱え、董仲舒は「天は変らず、道もまた変らず（天不変、道亦不変）」と賛美したが、この種の保守的な思想は、何千年もの間、中国に影響を与え、厳密には、中国における科学と技術の発展を妨げてきた。

二つ目は、発展性と安定性の衝突である。技術的文化は、科学と技術の発展に関わる独特の文化形態である。科学の実行性は、「スモール・サイエンス」から「ビッグ・サイエンス」へという組織体系のプロセスをもち、技術的文化もまた、知識の蓄積や知性の継承という構築のプロセスをもつ。伝統的な倫理的文化は生命の原理を強調するが、この価値の定位は、たとえ封建的な迷信や愚劣な思想を用いたとしても、技術的文化の思考様式と調和することはない。

三つ目は、開放性と閉鎖性の衝突である。単一の様式は硬直的な思考につながるだけであるから、創造的な作業としては、技術的研究の思考方法は複合的である。そしてそれは、覇権や権威に反対し、懐疑的精神を奨励し、学術的な交流を支援する。ビッグ・サイエンスの時代において、技術的研究は境界を越え、学科の境界ではあらゆる方向性における協力と交流が実行され、それらは技術的文化の多様かつ開放的な特徴から切り離されることはない。伝統

的文化は、小規模の小農民経済の自足性によって深く影響を受けているように、何千年もの間、封建社会のくびきのもとに、そして、数多くの自閉状態とともに形成されてきており、これは技術的文化の開放性とは異なる。

四つ目は、目的合理性と価値合理性の衝突である。市場経済の条件下での物質主義的な社会の拡大や、技術的進歩および経済成長への偏った追求とともに、目的合理性は、人間の精神の領域においてますます支配的な位置を占めつつあり、価値合理性は、ますます軽視され周辺化されつつある。近代の技術的文化と伝統的な倫理的文化との衝突はいっそう顕著になり、それは近代社会における危機の根源となっている。

#### 1.4 技術的文化と倫理的文化の融合

人間社会における技術的文化と倫理的文化の関係性は、衝突という客観性を許容し、融合という傾向性を理解しなければならない。したがってそれは、理想的な状態においては、伝統的文化へ科学的精神を行き渡らせ、伝統的文化の革新を促進し、科学と技術の発展が伝統的文化の倫理的精神によって調整されるようにし、そして、人文的な経済学を要求する。

第一に、目的合理性と価値合理性の統合である。近代の科学と技術は、その空前の経験的な効果によって、自然と人間に対する征服において重大な役割を果たす。それによって人々は、科学と技術を礼讃し、技術的合理性を唯一の目的として捉え、人間の行為を操作し制御すべく目的合理性を使用し、最終的に、人々と自然との緊迫した関係性を作り出してしまうことになる。こうして、社会的疎外、欲望の増大、道徳の退廃、精神的荒廃といった、西洋近代

のジレンマが生じる。私たちは、技術的文化と伝統的文化の関係性を再検討する一方で、人間の合理性を統合し、目的合理性と価値合理性の間の緊張関係を維持すべきなのである。

第二に、科学的精神と人文的精神の融合である。科学的精神は、近代的世界における合理的で整然とした秩序を実現する探求において、住み場のない感覚を人々に引き起こす。それはまた、元来の自然な秩序や自然な操作様式を変化させ、それらを包括的で功利主義的な技術にする。その結果、人々は科学的合理性を内省するようになり、科学的精神と人文的精神の交流に対する意識が主張され、科学と人文学の調和が構築されるとともにそれらの対立が回避され、合理的で整然とした人間社会の秩序形態の探求において、科学と人文学の相互補完的な役割が果たされる。

第三に、技術と倫理の均衡関係である。人間社会の発展において、科学と技術は強い力となり、倫理を拒絶する傾向を示す。技術の消極的な効果はますます顕わになり、倫理的な標準が緊急に必要とされる。そのため、技術と倫理の良好な相互作用および均衡関係を促進すること、また、科学や技術についての倫理を精力的に要求することは、社会発展にとって急務となろう。科学者の自己抑制や社会的責任、生命倫理、環境倫理、ネットワーク倫理が新たな論題となってきた。そして、技術倫理は、技術と倫理の交差的領域である。それは一方で、科学と技術の関心を維持するとともに、それらの健全な発展を保護し促進する必要があるが、科学と技術の発展にとっての障害とはならないだろう。それは他方で、人々の権利と尊厳を維持し、人間に役立ち、人類に危害を加えない必要がある。技術と倫理の良好な相互作用および均衡関係を促進することは、技術倫理

の義務的使命であり、その大きな存在理由である。

## 2. 文化的多様性を守る

社会発展は社会的な力を解放するが、その実際的な効果は、趣味や行動やシステムを標準化することである。専門家の多くは、世界の発展によって文化的均一性が生み出されることを懸念している。それとは反対に、それぞれの社会は異なる歴史を有するため、あらゆる標準化は不可能であり、文化的多様性が発展構想における全体的目標とならなければならない、と考える者もいる。文化的多様性は、人類史における恒常的な共通の性質である。どんな種類の文化も、他の文化と区別される際にのみ同定され、現実的に存在しうる。一方で、異なる自然環境や歴史的条件に対応しているため、文化の起源や進化が同一であることは不可能である。他方で、人々の必要の相違、欲望や理想の豊かさは、文化的多様性によってのみ表現され充足されうる。経済学者のステイーヴン・グリーンは、文化的多様性が人類の生存にとっての鍵となるかもしれない、と考えている<sup>(1)</sup>。

### 2.1 問題に直面する

グローバリゼーションは、その事実認定や価値判断に関してどれだけ多くの相違があろうと、現代の経験の一部として議論の余地のない存在である。まずそれは、経済的行為の描写に関するものであり、ハイテク機器による通信、低コストの輸送、国境なき自由貿易は、世界全体を、統一化された市場へと融合させつつあるが、これは経済的領域に限定されない。市場的資本主義という主導的な近代的システムとしてナショナルな国内政治が、そして、自由という主導的な近代的価値として権利と正義が、ほとんどの国々で受け入れられてきた。人々の生活にお

けるすべての分野はますます、より緊密で、より差異のないような全体となりつつある。すべての種々の独自の文化（ナショナル、国家的、ローカル、共同体的）の交流と協力は、全体的発展の傾向を示し、文化的アイデンティティと価値認識は、ローカリゼーションの傾向をいっそう超越しつつある。アメリカ合衆国の学者、ピーター・バーガーは、文化的なグローバリゼーションを担うものとして4種類をまとめている。一つ目は「ダボス文化（Davos Culture）」と呼ばれ、国際的なビジネスのエリート集団である。二つ目は「国際的教授団（Faculty Club International）」として知られ、国際的な知的エリート集団である。三つ目は「マックワールド文化（McWorld Culture）」である。四つ目は「福音派プロテスタントイズム（Evangelical Protestantism）」、すなわち、あらゆる大規模の大衆運動であり、たいていは宗教的行為を指す<sup>(2)</sup>。いわゆるグローバリゼーションというのは、西洋から世界の他の部分にまで広がるこれら四つの担われ方をともなう、文化的な物質および観念である。抽象的な意味でいえば、文化的なグローバリゼーションは、グローバルな価値やグローバルな倫理を意味し、境界を越え、システムを越え、そして、イデオロギーを越えて、ついには、グローバルな文化的共同体へといたる。

## 2.2 文化的多様性の守り方

多様性は長い歴史を有するが、まさしくグローバルな拡大の時代において、それは一つの課題となった。西洋の主導的なグローバリゼーションに対して、発展途上国や脆弱な文化には、三つの態度しか選択の余地がない。その態度というのはすなわち、受容すること、抵抗しようとする事、均衡関係を探求

することである。一つ目の態度は、多様性が忘却されたり抑圧されたりすることになるだけである。二つ目の態度は、すべての文明において隔絶や敵意を悪化させるかもしれない。しかし、三つ目の態度は、理性的かつ実行可能である。いわゆる「均衡関係」は、ローカリゼーションをもってグローバリゼーションを修正することであり、多様性をもって単一性を緩和することであり、グローバルな背景のもとに交流と対話を通じて独自の文化を発展させることである。現代の文化的実践から、多様性を守る三つの力が見出される。

第一に、ナショナリズム政策の保護である。グローバリゼーションと文化的覇権は切り離すことができないだろう。資本の運動や多国籍企業の成長をともなう、経済的に強力な西洋のネーションは、情報の担い手、すなわち、映画といった商品の輸出の独占を通じて、文化的製品の輸出を支配する。文化の強さは経済的な力の強さに由来し、その結果、文化的覇権や権力政治を実行する。そのような文化帝国主義に直面して、途上国が先進国の文化的消費物へ還元されるだけではなく、先進国が自らのナショナルな利害や文化を求め、アメリカ合衆国の文化産業の侵入に対して、様々な予防メカニズムを採用することもある。政府の行動は、文化をその原則として捉えることはなく、文化的な安全性の背後には、政治的利益や経済的利益が存在する。政治的利益に関していえば、一様な文化的な標準や基準に対抗して、ナショナルな文化を保護し、また、いくつかの先進国を警戒する。とくにアメリカ合衆国は、政治的利益に関する国際的な戦略的検討を図るべく、他の国々を制御するような文化的方法を使用する。現代の文化は社会的権力の領域となったが、私たちは文化的差異性を説き、社会的な権力関係をもって実

行すべきである。グローバリゼーションはまずもってナショナルな文化的障壁を除去するため、政府の行動はナショナルな文化的アイデンティティを突出させる。西洋文化による挑戦に直面しつつ、ナショナルな文化的尊厳を維持する行動には、ネーションを保護するという文化的創造性の意義も備わっているのである。

第二に、ローカリゼーションに関する自己意識である。グローバリゼーションは同化と一般化の力をもっているが、個人および集団による生産と消費は、つねに差異あるものである。文化は、社会的生活の産物であり、ナショナルな精神の結晶である。各々のネーションやあらゆる共同体は、自らの独自の文化的様式や文化的性格をもっており、この種の独自の文化にとってそれらは、ナショナルな結束力や共同体的な親和力となり、また、文化的な繁栄および発展の必要条件となる。閉鎖された環境においては、あらゆる種類の文化的意識は明確なものではないが、グローバリゼーションはあらゆる種類の文化に、より多くの交渉や交流の機会を与え、また、文化的伝統や独自の価値を際立たせる。文化のグローバルな収斂は、文化的多様性の維持も可能にしたが、そうしたなかで、ローカリゼーションとグローバリゼーションの共存の傾向が現われている。近代性は、均一性と多様なローカルな文化をもたらさう。まず、文化は伝統を遂行する。2千年前の「枢軸時代」の文明は、主要文明の領域を支配してもいる。現在の段階において産業は、あらゆる種類の文化を根絶することはできておらず、グローバルな文化を前にして、古典的な文化や個々の精鋭の文化が現存する。さらに、地球上の生活様式は依然として見事な差異性を有し、望ましい未来や追求されるべき幸福は同一の目標のもとに存在しえない。西洋の文化的産物

や生活様式は、技術や方法をもって世界全体に普及するだろうが、英語が方言に取って代わることはないだろうし、コンピュータが文書に取って代わることはないだろう。文化が生活方法であり、ある種の信念形態でもあることについては、疑いの余地がない。文化的均一性は、グローバルな市民の差異ある要求に応えることはできず、そして、グローバリゼーションは、文化の独自性を排除することはできない。

第三に、個人による選択の自由である。近代の成長のプロセスは個人の解放のプロセスであるが、政治的革命は個人的な外部制約を一掃し、ロマン主義的な文化的革命は情緒的なものや自然的なものを確立した。現代の自由主義的な思想家によれば、自由の優先性は「権利は絶対的である」ということにある、と理解すべきだと考えられ、自由は、調停する力を否定すること、そして、あらゆる社会的要素における明白な境界を指定することを意味する。文化的な論点に関していうと、権利というのは人格権や財産権、参政権を指すだけでなく、言論や報道の自由をも含む。現代のグローバリゼーションの特徴は、一方で、地球上を席捲する西洋文化であり、それは普遍的な力と化しているが、他方で、西洋文化は自由を含み、その価値も徐々に広がりつつある。政治的信念や社会システムがグローバルな普遍性を有するならば、文化的な領域においてそれは、差異性や独自性や個性からなる自由空間である。こうした実際的な経験は、産業化の時代において、特別な社会的空間や代替的価値の概念を示している。当然のことながら、私たちはいかなる種類の文化的存在の権利も容易に無効にすることはできない。政治的収斂や経済的統合を考慮した場合、差異性や多様性を保護するという使命は、文化によってこそ想定される

はずである。文化産業は、個性に対応する仕方で提供されるわけではないが、しかし、個人は依然として、受容や消費の際に異質性を部分的に創造することができる。それゆえ、文化産業は、消費者を同一の性格へ押し込めることはできないだろう。

## 注

(1) UNESCO (2002) World Culture Report 2000: Cultural Diversity, Conflict and Pluralism, Beijing University Publishing Agency Press, p.159.

(2) Peter L. Berger (2004) Aspects of Globalization, Xinhua Publishing Agency Press.

## 参考文献

Peter L. Berger (2004) Aspects of Globalization, Xinhua Publishing Agency Press.

Herman E. Daly and Kenneth N. Townsend (2001) Valuing the Earth: Economics, Ecology, Ethics, Commercial Press.

Arif Derek (1999) Post-Revolutionary Atmosphere and Global Capitalism, Social Sciences Literature Publishing Press.

Erich Fromm (2003) The Sane Society, International Cultural Publication Company Press.

Anthony Giddens (2001) Runaway World: How Globalization is Reshaping Our Lives, Jiangxi People's Publishing Agency Press.

Aristotle (2003) Nicomachean Ethics, Commercial Press.

Denis Goulet (2003) Development Ethics, Social

Sciences Literature Publishing Press.

Wiktor Osiatyński (1988) Contrasts: Soviet and American Thinkers Discuss the Future, Shanghai Translation Publishing Press.

François Perroux (1987) A New Concept of Development, China Publishing Press.

John Rawls (2000) A Theory of Justice, Social Sciences Literature Publishing Press.

Holmes Rolston (2000) Philosophy Gone Wild, Jilin People's Publishing Agency Press.

Giovanni Sartori (2009) Democratic Theory, Shanghai People's Publishing Agency Press.

Thomas A. Shannon (2005) An Introduction to Bioethics, Heilongjiang People's Publishing Agency Press.

Alain Touraine (2003) Whether Co-Existence, Commercial Press.

UNESCO (2002) World Culture Report 2000: Cultural Diversity, Conflict and Pluralism, Beijing University Publishing Agency Press.

## 助成

2010, Liaoning Province Social Sciences Plan Fund, Key Project.

Project Name: Philosophy Ponder of Economic Development Mode Transformation.

Project Number: L10AZX001.

Project Time: 2010.11-2011.12.

郭 玲玲 (中国 遼寧大学)

布施 元 (東京家政大学非常勤講師)